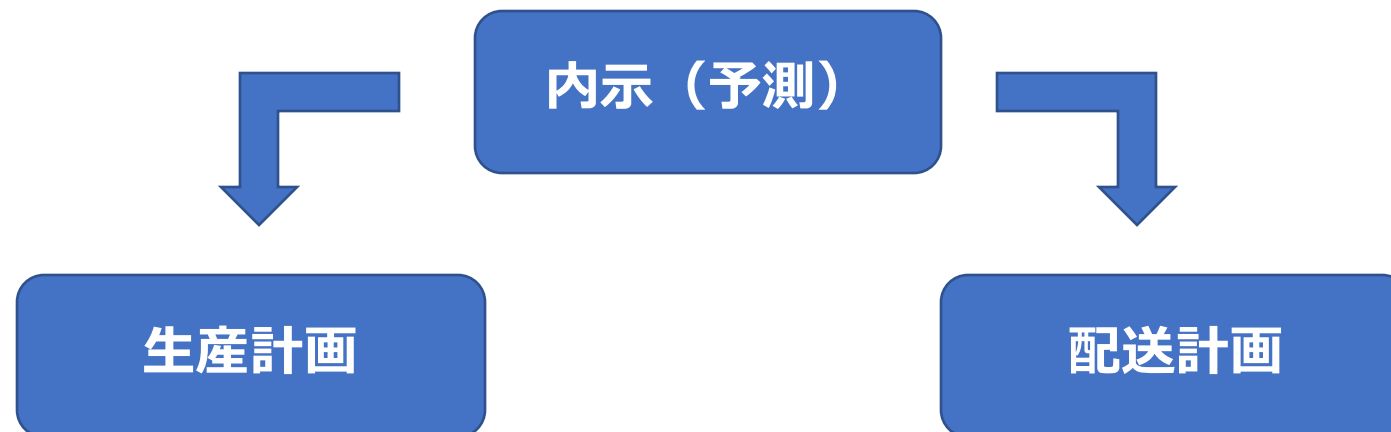


A-1. 深堀分析の対象の絞り込み

❖ 2ヶ月前の内示（予測）と実際の需要量（実績）との乖離が大きいこと

<対象絞り込みの理由>

- 当社は、主要取引先からの2ヶ月前の内示（予測）に基づき、工場での生産計画およびトラック配送計画をたてている。
- 予測と実際の需要量（実績）との乖離は、生産計画の大幅な見直しに伴うロスを生み出すとともに、配送業務にかかるコスト増加にもつながる。
- 生産コスト・配送コストの削減の観点から、予測と実績の乖離をなくすことが極めて重要と考え、深堀分析の対象とした



A-2. 深堀分析の対象としなかった事項と理由

事項①コスト削減に向けた課題～外部倉庫の適切な活用・あり方の検討

【理由】

- ✓ 当社にとって横持ち輸送をいかに下げるかが経営上の課題となっていると思料。この点、外部倉庫の適切な活用やあり方を検討することが重要と考えるが、検討するだけの十分なデータや定性的情報が足りないため、今回は深堀分析の対象外とした。

事項②売上増加に向けた課題～売上の90%を取引先1社に依存していること

【理由】

- ✓ 一般的には、望ましいことではない。かつ、こうした1社依存が閑散期と繁忙期を生み出しているとも考えられる。経営のリスク分散、あるいは生産の平準化の観点から、新規開拓等、売上増加に向けた課題に取り組む必要性は十分にあるが、今回はデータ分析が主目的であり、深堀分析の対象外とした。

B-1. より詳細な分析①

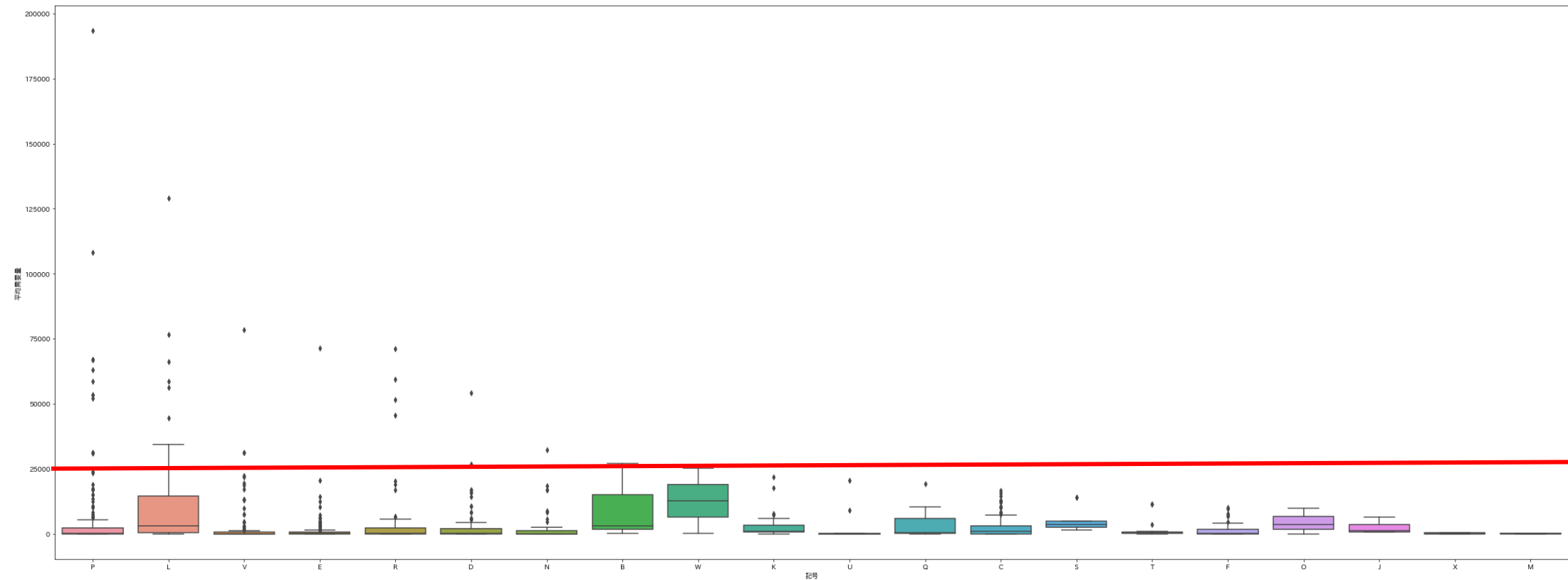
【課題】 2ヶ月前の内示（予測） と実際の需要量（実績） との乖離が大きいこと

- 当社は部品点数が2,000を超える。また、部品コードはアルファベット + 数字7桁の構成。
- 全体の傾向を掴むため、部品コードの最初のアルファベット別に、月別の平均需要量を箱ひげ図で示した。

【分かること】

- 小ロット多品種
- すべての部品で第1四分位が平均需要量25,000以内におさまる

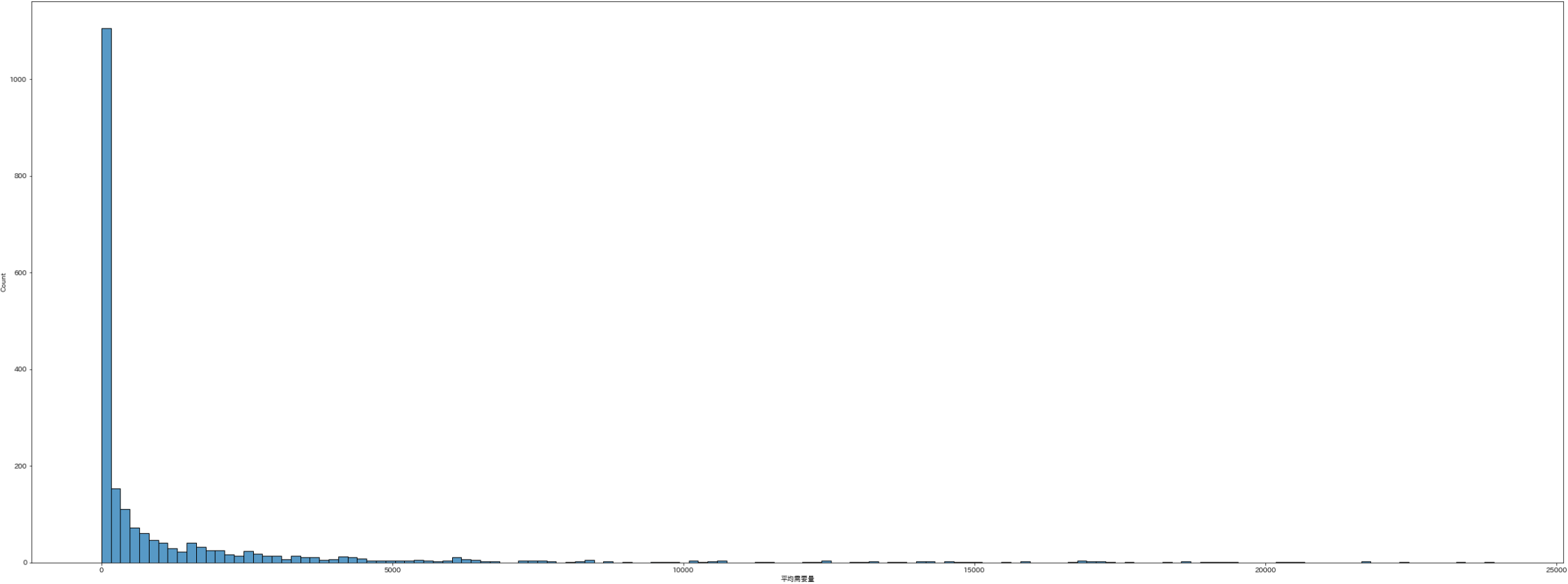
部品別の平均需要量（月）の箱ひげ図



B-1. より詳細な分析②

- 平均需要量が25,000以下の部品にしぼって、さらに平均需要量別のヒストグラムを示した。
【分かること】
- 極めて小ロット多品種

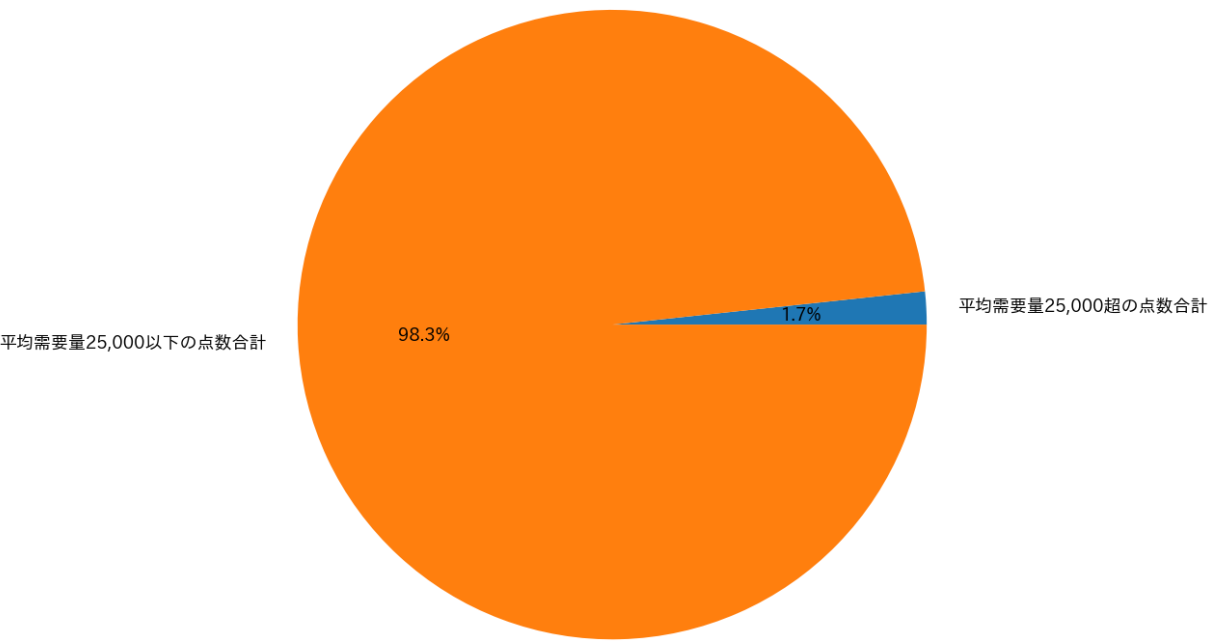
平均需要量別の点数（平均需要量25,000以下の部品に限る）



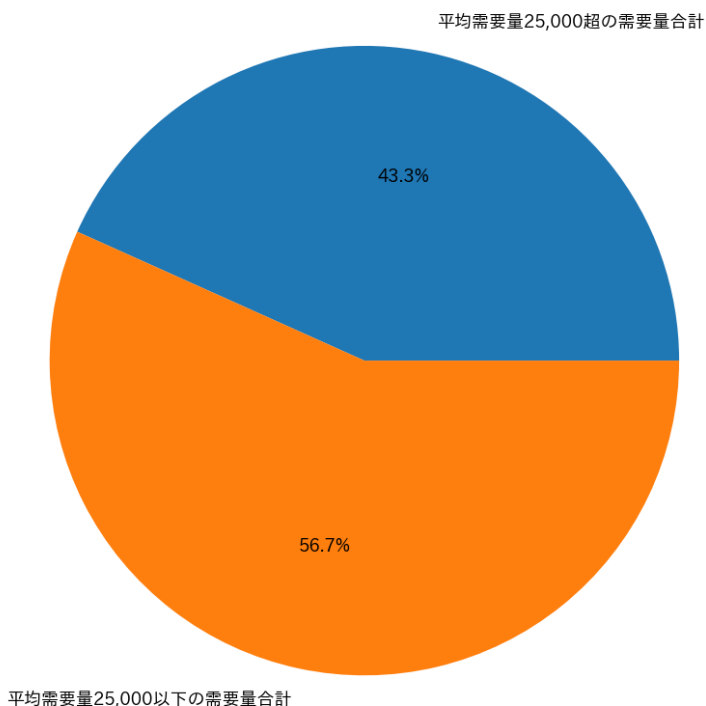
B-1. より詳細な分析③

- 平均需要量が25,000以下と25,000超で部品点数、平均需要量の合計を示した。
【分かること】
- 平均需要量が25,000超となる部品は、点数としては極めて少ないものの、需要量にすると全体の4割を占める。

点数合計



平均需要量の合計



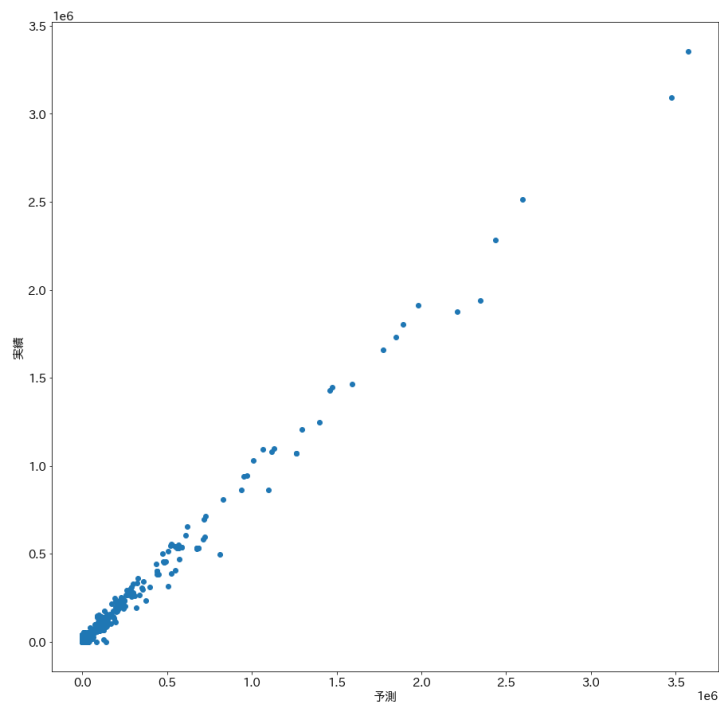
B-1. より詳細な分析④

- 部品別に、観測期間トータルの予測と実績の合計を散布図で示す。

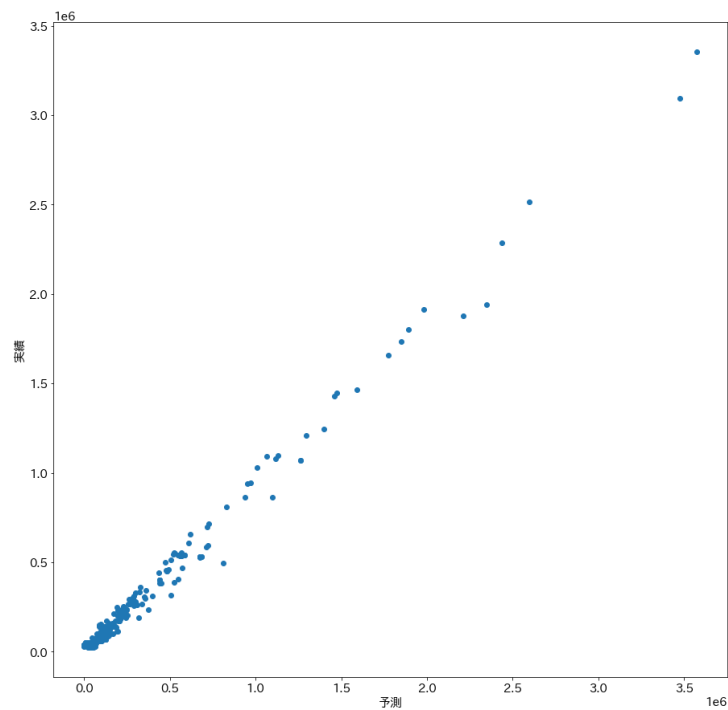
【分かること】

- 平均需要量25,000超については、トータルで見れば、予測と実績が概ね相関している。→乖離が少ない可能性
- 一方、平均需要量25,000以下については、予測と実績に乖離が大きい。

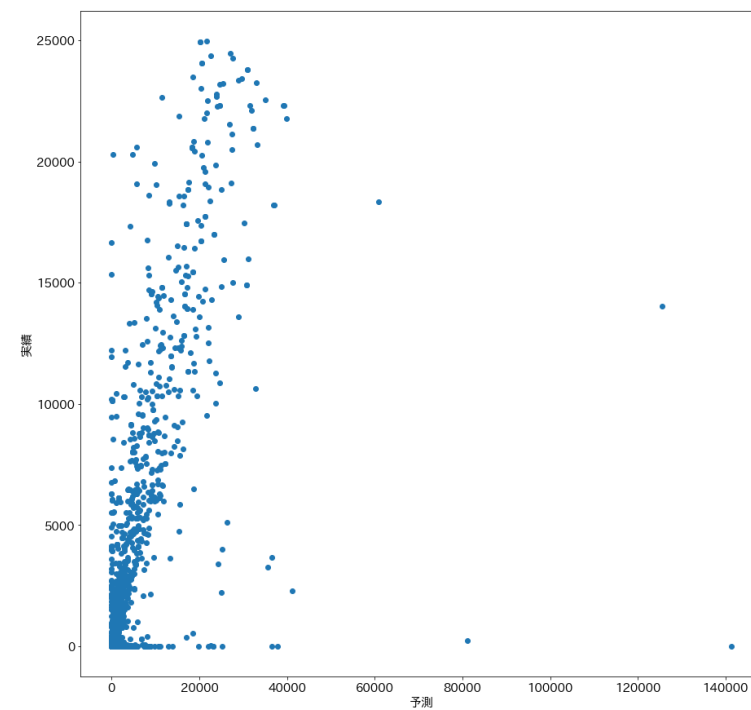
全体



平均需要量25,000超



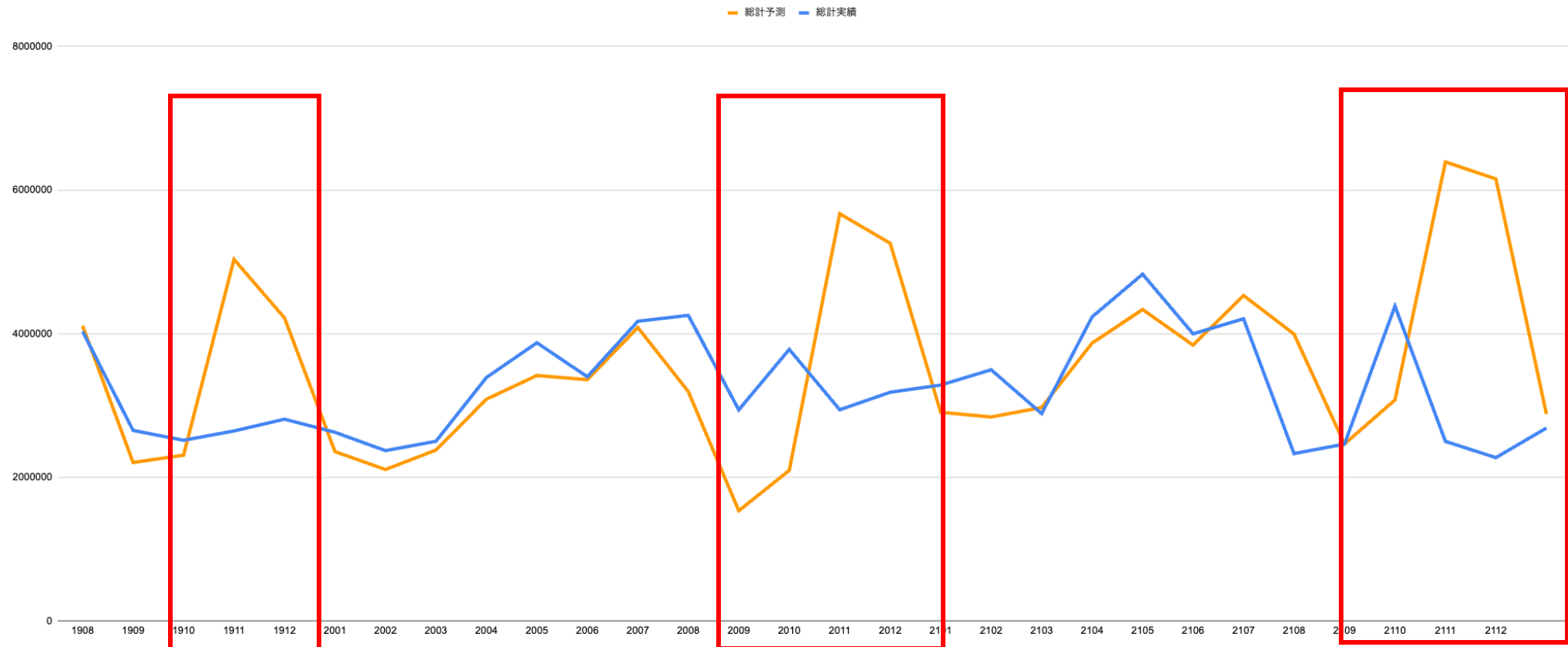
平均需要量25,000以下



B-1. より詳細な分析⑤

- 月別の予測総計と需要総計をプロットした。
【分かること】
- 閑散期である冬場の乖離が大きい。

予測総計と需要総計の月別推移（19年7月～21年12月）



B-2. 取り組む課題の選定、解決の方向性

【課題の選定】

2ヶ月前の内示（予測）と実際の需要量（実績）との乖離が大きいこと

【解決の方向性】

- **平均需要量が少ない部品**について、内示（予測）と需要量（実績）との乖離を小さくする方策を検討する。
- **閑散期**における、内示（予測）と需要量（実績）との乖離を小さくする方策を検討する。